



三菱マテリアル株式会社

2025 年 3 月期第 3 四半期決算説明会 質疑応答議事録

2025 年 2 月 13 日

登壇者：執行役常務 (CFO) 高柳喜弘

2025 年 3 月期第 3 四半期決算説明会 質疑応答議事録

質問者 [Q]：ヘッジ停止による評価損益の動向を金属と銅加工に分けて、それぞれ第 3 四半期、第 4 四半期でどのように影響が出るか教えて欲しい。

高柳 [A]：経常利益ベースで、金属の第 3 四半期はマイナス 25 億円、第 4 四半期はプラス 22 億円となっている。銅加工は第 3 四半期がプラス 10 億円、第 4 四半期がプラス 9 億円となっている。

金属事業・銅加工事業の合計値は、第 3 四半期はマイナス 15 億円で、第 4 四半期はプラス 31 億円となっている。

質問者 [Q]：今回、損益の変動があった箇所をセグメント毎に前回予想と今回予想の差で内容を教えて欲しい。また、営業外収支でロスペランブレス銅鉱山からの配当金が減少した背景も教えて欲しい。

高柳 [A]：金属事業は前回予測との変動で一番変動が大きい項目はロスペランブレス銅鉱山の配当減でマイナス 15 億円となっている。銅価の前提の置き方、一部の設備投資の変動があったところから配当金額が減った。

その他の営業外では為替の前提条件が米ドルで 150 円/\$から 155 円/\$に変更した影響がプラス 19 億円ほどある。大きいものはこの二つとなっている。

続いて銅加工は販売の数量差が大きくマイナス 27 億円ほど発生している。これは、先ほどのヘッジ停止影響も含めたところの金額となっている。その他の営業内では在庫の時価評価の差がプラス 6 億円ほどあった。

電子材料はほぼ大きなトピックスはなく、基本的には数量差で当初予定よりも販売が伸びたことが理由である。当社の製品でメッキ液などの機能材料で販売が予想よりも少し上振れしたことで増益となった。

加工は前回予想から数量差でマイナスが出ている。いわゆるプロダクトミックス・販売ミックスにおいて構成差が悪くなり価格面で約マイナス 7 億円、それ以外は数量でマイナス 7 億円となった。プラス面ではその他に一部販管費削減などで数億円のプラスがある。これらを全部含めてマイナス 20 億円ほどとなっている。

質問者 [Q]：加工事業について、前回予想に対して数量を特に下方修正している地域を教えてください。

高柳 [A]：数量的にはまずヨーロッパが自動車メーカーの販売低調の影響を大きく受けて落ちている。それ以外では中国も落ち込んでいる。中国は足元 EV も販売にブレーキがかかっている状況だが、日系の OEM も軒並みシェアを落としていることもあり、その影響で当社の販売も大きく落ちている。併せて日本も中国・東南アジアが悪い状況下では国内の生産も影響を受けている。

セグメント別四半期推移

(単位：億円)

項目		24年3月期							25年3月期						
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
金属	売上高	2,409	2,358	4,768	2,395	3,216	5,611	10,380	3,900	3,424	7,324	3,625	3,689	7,314	14,639
	営業利益	16	54	71	△3	30	27	98	88	136	224	△1	50	49	273
	経常利益	26	58	84	198	27	225	310	121	58	180	237	36	273	454
高機能製品 *1	売上高	1,205	1,224	2,429	1,253	1,204	2,457	4,887	1,323	1,288	2,611	1,243	1,339	2,582	5,193
	営業利益	4	3	8	16	16	32	40	23	△33	△10	35	14	49	40
	経常利益	2	△0	1	8	8	16	18	20	△43	△23	31	5	36	13
銅加工	売上高	1,016	1,027	2,043	1,059	999	2,058	4,102	1,130	1,098	2,229	1,049	1,159	2,208	4,438
	営業利益	5	5	10	8	7	15	26	17	△32	△14	19	9	28	14
	経常利益	△0	△1	△2	△2	△1	△3	△5	8	△42	△34	10	△1	9	△25
電子材料	売上高	189	199	388	201	208	410	799	198	189	388	196	184	380	768
	営業利益	1	△1	0	7	9	17	17	7	1	9	15	6	21	31
	経常利益	4	2	6	9	11	21	28	14	1	16	20	8	28	44
加工	売上高	350	347	698	349	352	702	1,400	381	364	746	363	378	741	1,488
	営業利益	32	19	52	29	25	55	108	29	38	68	0	22	22	91
	経常利益	41	22	63	27	31	59	122	34	28	63	3	20	23	87
再生可能 エネルギー	売上高	12	10	22	12	11	23	46	23	21	45	18	21	39	84
	営業利益	3	△0	2	3	2	5	8	9	7	16	3	2	5	22
	経常利益	3	△0	3	2	3	5	8	12	5	18	4	2	6	25
その他	売上高	334	390	725	417	463	880	1,606	350	376	727	406	450	856	1,583
	営業利益	△1	16	15	16	45	62	78	6	15	21	17	8	25	46
	経常利益	20	62	82	51	87	138	221	40	49	89	58	6	64	154
調整額	売上高	△686	△795	△1,482	△774	△657	△1,431	△2,913	△842	△717	△1,559	△716	△916	△1,632	△3,191
	営業利益	△18	△12	△31	△27	△42	△70	△101	△28	△16	△45	△8	△22	△30	△75
	経常利益	△24	△27	△51	△35	△53	△88	△140	△43	△35	△79	△16	△50	△66	△145
合計	売上高	3,626	3,535	7,161	3,653	4,590	8,244	15,406	5,137	4,758	9,895	4,941	4,963	9,904	19,800
	営業利益	37	81	119	34	78	113	232	128	147	275	47	77	124	400
	経常利益	69	114	184	252	104	356	541	186	62	249	319	21	340	590

*1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

20

質問者 [Q]：加工事業について、20 ページの四半期の推移で、加工事業の営業利益が第 3 四半期でゼロとなったに主要因について教えてください。また、第 4 四半期の売上はそれなりに戻る感じに見受けられるが、第 2 四半期とか第 3 四半期に比べた違いなど教えてください。

高柳 [A]：第 3 四半期・第 4 四半期間での増益は確かに数字としては大きいですが、第 3 四半期の特殊要因として棚卸評価損でマイナス 10 億近い金額が計上されている点が一番大きい。これに加え為

替が第3四半期は若干円高に傾いたところもあり、この影響がマイナス10億円弱となっている。これらの影響でマイナスが大きかった。

質問者 [Q]：20ページの銅加工事業が四半期ごとに第2四半期32億円の赤字、第3四半期19億円の黒字、第4四半期が9億円の黒字となっているが、確か第2四半期にはヘッジ停止影響のマイナスが41億円計上されているとの説明のなかで実態の銅加工の損益状況はどのようになっているのか。

高柳 [A]：銅加工の第3四半期と第4四半期の実績については、ヘッジ停止影響を除く実力値では、営業利益で第3四半期がプラス9億円、第4四半期はプラス10億円という状況となっている。ヘッジ停止の影響を除く営業利益でみると第1四半期でプラスの15億円、第2四半期がプラスの12億円で、第3四半期、第4四半期で少し減少している形となっている。

質問者 [Q]：下期利益が減少する要因は何か。数量、コストとか、生産性など要因は何か。

高柳 [A]：数量の影響が大きいと考えている。コストについてはかなりコントロールしている状態である。したがってコスト面ではなく販売が伸びないことが要因と考えている。そのため、現在は自動車以外の顧客や、もしくは同じ自動車でも当社が今までリーチしてなかったお客様のところに販売の裾野を広げようという動きを行っている。

質問者 [Q]：通期予想に計上した減損損失の背景と、計上のタイミングは第4四半期か教えて欲しい。

高柳 [A]：減損については、次の第4四半期のタイミングではっきりしてくると考えている。そこで正確に計上をしていきたいと考えている。

質問者 [Q]：金属事業の収益分析の価格差で、パラジウムなど副産物の影響が前年比でどの程度プラスマイナスのインパクトがあったのか、メインの銅価格の部分と副産物とを分けて教えて欲しい。

高柳 [A]：副産物の影響は、パラジウム、プラチナなどを合計すると前期との比較でマイナス 7 億円程度になる。また、銅関係では銅価格の中には銅のプレミアムが含まれているが、このプレミアムがマイナス 8 億円程度となっている。

質問者 [Q]：金属事業のその他で、実収効率改善は 71 億円とあるが、第 4 四半期に製錬マージンの悪化などの影響が一部で入り始めると考える場合、製錬マージンの変化がある中で、実収効率の改善結果としてどのように残っていくのか、今後の製錬事業の業績水準を計算するために教えて欲しい。

最後に、製錬マージンについては来期に向けてのインパクトをどの程度見積れば良いか粗々の数字でも良いので教えて欲しい。

高柳 [A]：実収効率とマージンは必ずしもリンクはしない。比較的安定して操業ができた場合に、当初立てた予算よりも操業がうまくいった結果としてプラスが出るということで、これが毎年発生するかということそのようなものではない。

現在、2 月から 3 月にかけて直島は炉修に入っているため、特に来期はこの炉修の立ち上がり等も含めてうまくスタートを切れるとそれなりのプラスが期待できるのとは考えているが、今の段階で規模感などは想定するのは難しい。

この第 4 四半期では、TC/RC の低いものはほぼ入ってきていないと考えて問題ない。基本的にはおおよそ着いてから払い出しまで約 3 カ月程度の期間がかかるため、12 月に入着するものは、まだ高いナンバーの TC/RC で受け入れていると考えて問題ない。

来期に向けてのインパクトは、TC/RC は現在も交渉中で確定的なことは言えないが、報道にあるような水準まで下がると、100 億円から 150 億円程度のマイナスのインパクトは発生すると見積もっている。まだ、幅としては広いということは理解して欲しい。

質問者 [Q]：銅加工事業について、11 ページの増減の解説の中で、値上げの効果が施策に対して貢献額が小さいように見えるが何か価格差で値上げを相殺するような入れ繰りがあれば教えて欲しい。

高柳 [A]：銅加工の値上げの箇所については、3Q 累計の実績のところは対前年度で記載しているが、値上げ自体は銅加工業界全体でまだ大きくは動いてないと理解しており、金額のインパクトはこの程度と感じている。

質問者 [Q]：コスト改善に関してお聞きしたい。期初の段階では、コスト改善として 24 年度見込みとして 178 億円であったように記憶している。足元、様々な環境も変わっており、ヘッジコストも大きく動いている中で、コスト改善効果がどの程度になったのがわからなくなってしまうている。計画の中でどのように織り込まれているのか教えて欲しい。

また、来期に向けて事業環境があまり変わらない場合、さらなる自助努力でのコスト改善の有無についてどのように見たら良いのか。減損に関しても第 4 四半期まで確定しないという話もあったが、来期に向けての改善策が何かあれば教えて欲しい。

高柳 [A]：期初では 178 億円の数字で公表しているが、そこに近いレベルまで積み上がると予想はしているが、若干少し下振れている感じを受けている。特にどこが下振れているかはコメントを差し控える。

質問者 [Q]：今の質問の続きになってしまうが、来期が中計 Phase 1 の最終年度となっているが、様々なものが中計で計画していたところから遅れているかを感じる。改めて次のステップアップに向けて今何をしなければいけないのか、考えていることを教えて欲しい。

高柳 [A]：中計の最終年度での次のステップアップに向けて考えていることは、今まさに 25 年度の予算を立てているなかで中計の PDCA を回し分析しているが、2022 年に中計を発表した段階から足元では特に自動車市場などかなり変容していると感じている。当社としては今そこに向けて元々立てていた戦略を変化させフィットさせていくということを、既に取り掛かり始めている。これらを進めていくことでその先に次の Phase2 の形が見えてくると考えている。

自動車だけではなく TC/RC の下落なども含めて、どのような形・対応にしていくかについては、ある意味少し大きな変更をする必要も当社としては感じていると付け加えておきたい。